

自動販売機設置場所貸付に係る仕様書

1 貸付場所及び貸付面積（設置台数）

物件番号	財産名称	所在地	貸付箇所	貸付面積	台数
1	県立浦和第一女子高等学校	さいたま市浦和区岸町3丁目8番45号	西渡り廊下2階(A) 3号館1階(B) 格技場1階(C) (配置図参照)	1.90m×1.10m ×3台 6.27㎡	3台
2	県立浦和第一女子高等学校	さいたま市浦和区岸町3丁目8番45号	西渡り廊下2階 (配置図参照)	1.90m×1.10m 2.09㎡	1台

※1 貸付面積には放熱余地・回収ボックス設置部分を含む。

※2 管理上・美観上等の都合により、自動販売機の周囲に壁等を設置することもある。

2 貸付期間

令和2年4月1日から令和7年3月31日まで（更新なし）

3 設置する自動販売機の規格及び条件並びに設置場所を借り受ける者（以下「設置事業者」という。）の遵守事項

(1) 大きさ及びデザイン

① 大きさ

物件番号1：おおよそ幅1,250mm×奥行950mm×高さ2,000mm以内

物件番号2：おおよそ幅900mm×奥行950mm×高さ2,000mm以内

② デザイン（外観色を含む）

【物件番号1】

周辺環境に配慮したユニバーサルデザインとする。車イス使用者に対応した機能があるもの、外観色はグレーやホワイト単色などの公共機関にふさわしいものとする。

【物件番号2】

外観色はグレーやホワイト色など公共機関にふさわしいものとする。

(2) 環境対策

① 省エネルギー

「照明の自動点滅・減光」、いわゆる「学習省エネ」及び「ピークカット」並びに「真空断熱材やヒートポンプ採用」など、消費電力量の低減に資する技術等を導入した機種とするのが望ましい。

② 低GWP冷媒機

地球温暖化係数（GWP）の低い、二酸化炭素（CO₂）、炭化水素（HC）、又はハイドロフルオロオレフィン（HF01234yf）等を冷媒として採用した機種とする。

ただし、物件2については、いわゆる「代替フロン（地球温暖化対策の推進に関する法律による）」を認める。

③ その他

「平成31年度埼玉県グリーン調達推進方針」（平成14年3月策定）の自動販

売機の判断の基準に適合すること。(同方針の判断の基準は、国の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」(平成31年2月)と同じ。)

(3) 防災対策等

災害時に飲料提供ができるようにすること。ただし、物件番号2については、この条件を必須とはしない。

(4) 安全対策

① 転倒防止

「自動販売機の据付基準」(JIS規格)を遵守した措置を講じるものとする。

② 食品衛生

「食品、添加物等の規格基準」(食品衛生法)及び「自動販売機の食品衛生に関する自主的取扱要領」(業界自主基準)等を遵守し、販売商品の衛生管理に万全を尽くすものとする。また、商品販売に必要な営業許可を受けなければならない。

③ 防 犯

硬貨選別装置及び紙幣識別装置のプログラム改変により、偽造通貨又は偽造紙幣の使用による犯罪の防止に万全を尽くすものとする。また、屋内設置であっても「自販機堅牢化基準」(日本自動販売機工業会作成)を遵守し、犯罪防止に努めるものとする。

(5) 使用済み容器の回収

① 回収ボックスの設置

原則として自動販売機1台に1個の割合で自動販売機脇に設置する。

② 回収ボックスの規格

ア 素材

プラスチック製又は金属製など、中長期の使用に適した耐久性をもつ素材とする。

イ 容積

回収頻度と回収量を考慮し、回収ボックスから空き缶等の使用済み容器が溢れたり、周囲に散乱しない十分な収容容積とする。

ウ その他

使用済み容器以外の投入を禁止する旨の表示をするほか、使用済み容器投入口は紙等の一般ゴミが入りにくい形状を有するもの又はそのための仕掛けのあるものとし、使用済み容器と一般ゴミの混入防止を図る。

③ 使用済み容器の処理

容器包装リサイクル法(平成7年法律第112号)など、関係法令を遵守するほか、不法投棄やマイクロプラスチックによる海洋汚染等の問題に留意し、適切に処理する。

(6) 自動販売機の設置及び管理運営

① 設置事業者において、商品の補充(二日に一度以上)及び変更、消費期限の確認、売上金の回収及び釣り銭の補充並びに自動販売機内部・外部、設置場所周辺及び空き容器置場の清掃などを行うこと。

② 設置事業者において、消費期限の確認など、安定した高品質の商品を提供するための品質保証活動を行うこと。

- ③ 週に一度以上、空き容器の回収業務を行うこと。
- ④ 設置事業者において、専門技術サービス員による保守業務を随時行って維持に努めること。
- ⑤ 故障時に即時対応すること。
- ⑥ 改修工事等で自動販売機を移転（一時的に移転する場合も含む）の必要が生じた際、移転及び元の設置場所に戻す費用は設置事業者が負担すること。

4 販売商品の種類等

(1) 種類

- ① 物件番号1 ・ 3台全体で30種類以上の清涼飲料水
 (お茶を主体に、ミネラルウォーター、スポーツドリンク、紅茶、コーヒー、果汁飲料等をバランスよく入れること。炭酸飲料や、糖分の多いものは控えめに入れること。同一商品を多数陳列しないこと)
 ・ 缶、ペットボトルのみ (ビン、紙カップ、紙容器は不可)
- ② 物件番号2 ・ 10種類以上の乳飲料・清涼飲料水全般
 (牛乳及び3種類以上の乳性飲料は常時入れること)
 ・ 紙容器 (プラスチックカップ含む) のみ
 (ビン、缶、ペットボトルは不可)

(2) 価格

① 物件番号1	350ml以下缶・ペットボトル	…	90円
	351ml以上缶・ペットボトル	…	110円
	500ml程度(水)ペットボトル	…	90円
② 物件番号2	230ml以下紙容器	…	100円
	231ml以上紙容器	…	110円

5 貸付料

年額の貸付料は、賃貸借料提案書に記載された金額に当該金額の100分の10に相当する額を加算した金額(当該金額に1円未満の端数がある時は、その端数金額を切り捨てるものとする。)とする。

6 管理費

管理費は、年度ごと、設置料と同時に徴収する。

各年度の管理費については、前年度に埼玉県総務部管財課において決定した額とする。

令和2年度の管理費は、設置する自動販売機の種別に応じて、1台当たりの金額は次のとおりである。

- ・ 缶、ペットボトル 11,436円/年(うち消費税 1,039円)
- ・ 紙パック 14,412円/年(うち消費税 1,310円)

この管理費は、貸付料と同時に一括して埼玉県から設置事業者に請求する。

7 売上手数料

徴収しない。

8 費用負担

自動販売機の設置、維持管理及び撤去に係る費用は、設置事業者が負担する。

9 貸付場所の返還

契約の解除等により自動販売機を撤去する場合は、原状に回復して埼玉県の確認を受けなければならない。

10 自動販売機設置に伴う事故

埼玉県の責に帰する事由による場合を除き、設置事業者がその責を負う。

11 商品等の盗難及び破損

(1) 埼玉県の責に帰することが明らかな場合を除き、埼玉県はその責を負わない。

(2) 設置事業者は、商品及び自動販売機が汚損又は毀損したときは、自らの負担により速やかに復旧しなければならない。